

平成29年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果について

平成29年度 小城市立砥川小学校

全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析することによって教育の改善を図るという目的で、4月18日（火）に文部科学省による『全国学力・学習状況調査（国語A・B，算数A・B，意識調査）』を実施しました。実施対象は、小学校では6年生です。また、同日『佐賀県学習状況調査』が行われました。この佐賀県学習状況調査では、5年生の国語・算数・意識調査を実施いたしました。以下、その趣旨を全国学力状況調査を基に紹介します。

また、本校では、その結果を踏まえ、今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。

尚、本調査の結果はあくまでも児童の学力の一部を表したものに過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指していきます。

■ 調査の趣旨（文部科学省より）

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することのより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況と関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげる。

■ 調査の内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A，算数A〕（各20分）	主として「活用」に関する問題 〔国語B，算数B〕（各40分）
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい 知識・技能 など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

（2）生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査（20分程度）
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか，授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビを見る時間，読書時間，勉強時間の状況 など

A(知識)テスト結果

全体の概要

本校のA問題では、話す・聞く、読む、漢字の書き、語句に関する知識でおおむね達成しており、すべての観点で全国の平均を上回っている。特に聞く・話すは全国平均を大きく上回っていた。

B(活用)テストの結果

全体の概要

本校のB問題で、全体的には全国・県の正答率を下回る結果となった。十分達成した問題はなく、半数の問題が全国・県の平均を下回った。目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題や、目的や意図に応じて、引用して書く問題が難しかったようである。しかし、無解答の問題は1問もなかった。

分析結果・自校の課題	
話すこと・聞くこと	<p>○互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う問題においては、全国・県の正答率を上回っており、十分達成の域にある。</p> <p>●話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える問題では、おおむね達成の域にあるが、県の正答率をやや下回った。</p> <p>●目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題では、県の正答率はやや上回ったものの、おおむね達成の正答率と同じであった。</p>
書くこと	<p>○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題においては、全国・県の平均を上回っている。</p> <p>●普段の生活の中で手紙を書く機会がほとんどないためか、手紙の後付けの書き方が理解できていない。</p> <p>●目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える、引用して書く、必要な内容を整理して書くことが苦手である。どれも全国・県の正答率を大きく下回っている。</p>
読むこと	<p>○俳句の情景を捉える問題や、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる問題においては、おおむね達成の域ではあるが、全国・県の正答率を大きく上回る結果であった。</p> <p>●目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけることができていない。</p> <p>●自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることができていない。</p>
言語事項	<p>○漢字の読み・書きについては、「事務室」の読みと「置いて」の書き取りがほぼ全員正答できた。</p> <p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題においては、十分達成の域にある。</p> <p>●古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む問題においては、全国・県の正答率を大きく下回っている。努力が必要である。</p> <p>●漢字の書き問題において、「対象」が書けていない児童が多かった</p>

○・・・成果
●・・・課題

改善に向けた具体的取り組み	
話すこと・聞くこと	<p>☆★場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことを日常生活の中で意識させる。</p> <p>☆朝のスピーチ活動の工夫 [例:条件付きスピーチ・テーマ別スピーチなど]</p> <p>☆話し合い活動時に、メモを取る活動を取り入れ、どのようなことをメモに取ればよいか確認する。</p> 
書くこと	<p>☆★目的や意図に応じて書くことが重要となる。そのため、様々な文章を書かせることや、内容を整理しながら意図した文章が書けるような指導を取り入れていく。</p> <p>*2学期から取り組むこと！！</p> <p>★条件付きの日記や作文に取り組む。 *理由・根拠を明らかにして書く。 *経験・体験を取り入れて書く。 *オリジナル新聞の記事を書く。 など</p> 
読むこと	<p>☆★どの学習活動でも文章を読み取る際には、文中に自分なりに<u>大事だと思う文や言葉には、サイドラインを引いたり、印をつけるなどの読み取る技を身につけさせる。</u></p> <p>★音読と読書のすすめ(自分が感心がある新聞記事など)</p> <p>☆自分が必要な情報は、どんな資料・書籍から得ることができるか、国語科だけではなく、他教科・領域での学習経験を積ませる。</p> <p>☆意見の交流を目的としたグループでの話し合い活動を授業の中で仕組んでいく。</p> 
言語事項	<p>★漢字学習の工夫 [例:同じ部首をもつ漢字集め・同じ読み方の漢字集め]</p> <p>★ノートを丁寧に書く指導。(正しい字の知識活用)</p> <p>★「ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語」などの言葉の学習に加え、短文作りに取り組む。</p> <p>☆★普段から古文に親しめるような環境を作っておく。(教室内にコーナーを作っておくなど)</p> <p>どの学習活動でも、国語辞典で語句の意味を調べる習慣を身につけていきます。</p> 

☆・・・学校で取り組むこと
★・・・家庭で取り組んでほしいこと

◆平成29年度 全国学力・学習状況調査《 6年生 算数 》

A(知識)テストの結果

全体の概要

基本的な計算や図形、数量関係についての知識・理解は、全国・県の平均を上回り、基礎・基本の内容が理解できているといえる。数量や図形の技能面は全国の平均点は上回っているものの県平均と同じであった。

分析結果・自校の課題

数量や図形の知識・理解

○小数や分数の数のしくみや大きさについては理解できていた。
○水のかさの間接比較の仕方を図から読み取ることができた。
●全国・県の平均よりも低い問題は以下の内容である。
・円周の角度の計算
・立方体の展開図
→図形についての問題が多い。算数的活動を取り入れながら、図形的感覚を身につけていく必要がある。

数量や図形についての技能

○十分達成に到達している問題が多かった。小数の計算について特に得意としているようだ。今まで、朝の花丸タイムや間違い直しの徹底した指導をすることで身につけてきた。
●十分達成できていない問題は以下の内容であった。
・かけ算、わり算は先にするなど、計算の仕方について
・表の整理やその合計
→中学年の学習内容であることから、花丸タイムを使って、前学年の学習内容も復習する必要がある。

数学的な考え方

○無回答率が低いことから、自分の考えを説明することについては苦手としていないと考える。これは、めあて・問題のあとに自分の考えをノートにまとめる学習活動を行ってきた効果だと考えられる。
●表を見て、問題条件にあった数値を取り出し、計算することが難しい。
●9問中5問が、全国平均を下回っていた。学習で得た知識を生活の中で生かすような問題を解いていく経験がまだ不足していると言える。



- ・・・成果
- ・・・課題

B(活用)テストの結果

全体の概要

「活用力」の問題では、全国の正答率を下回っていた。文章をよく読んで答える数学的な考え方を問う問題でも全国・県の平均を上回っているものと、大きく下回っているものがあり、問題によって差がある。

改善に向けた具体的取り組み

☆理解していない単元の復習を花丸タイム・すくすくタイムで取り組んでいく。特に、理解していない内容については図等を利用してイメージを明確にし、掲示物などで視覚的な学習機会を増やす。
★日々の家庭学習の中に発展問題をおりませっていく。
*ドリルまたはプリントを自分の力で解く。
*間違えたところのやり直しを必ずし、復習する。
*チャレンジ問題・過去問にも取り組む。
*なぜそうなるか理由が簡単に説明できるようにしていく。
*式を見て、どんな考え方をしているか、理解できるようになる。

☆★苦手な単元を把握し、花丸タイムなどを活用して、繰り返し練習問題に取り組ませる。また、誤答ややり方が分からない時は、すぐに補習をし、課題解決させる従来の方法を継続していく。
*単位量に関する問題についての補充
*問題場面に応じて、2つの量のどちらかを単位量とするかについて数直線や線分図を使い問題を的確に理解し判断できるように指導の仕方を考えていく。
*「花丸タイム」の中で、前学年までの復習も随時行う。

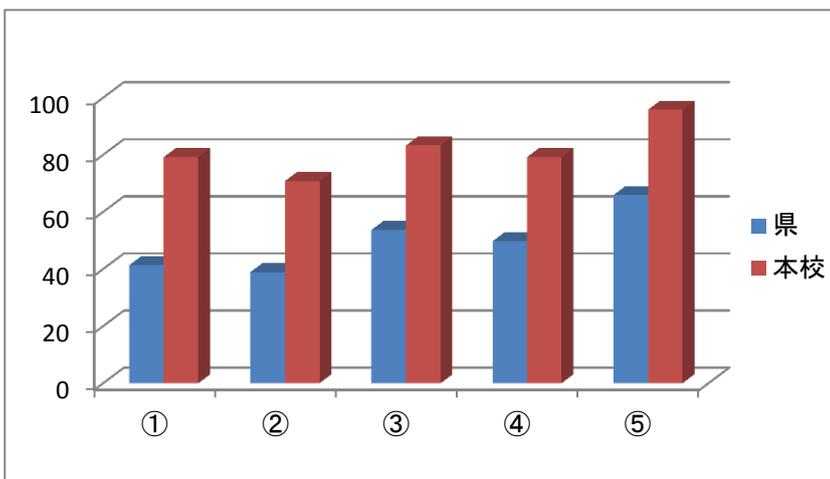
☆日頃の授業の指導を通して取り組むこと
・条件は何か、問うているのは何か、解くために必要な数量はどれかなどに線を引かせたりし、問題の理解を図る。自力解決では半具体物や図や数直線などを利用させたりして既習事項をつかい、途中まででもいいので何とか自分で考える指導を重視する。特に基準量、比較量、割合の関係を捉える問題では、数直線を書かせ基準値の1を意識させるよう指導する。
・自力解決の後、図や言葉、式等を利用し、説明を相手に伝えたり、ノートに書かせたりする取り組み(交流活動Ⅰ・ペア・3人組)を充実していく。
*問題を解くときは、わからない・無解答ではなく、何かを書くことの大切さ、何かを発言することの大切さを支援する。

- ☆・・・学校で取り組むこと
- ★・・・家庭で取り組んでほしい

◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から 《6年生》

【数値が特に高かった項目】

①	人が困っているときは、進んで助けている。 *「当てはまる」と答えた児童の割合
②	授業で学んだことを、他の学習や普通の生活に活かしている。 *「当てはまる」と答えた児童の割合
③	学校に行くのは楽しい。 *「そう思う」と答えた児童の割合
④	学校の決まりを守っている。 *「当てはまる」と答えた児童の割合
⑤	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組立てを工夫している。 *「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合

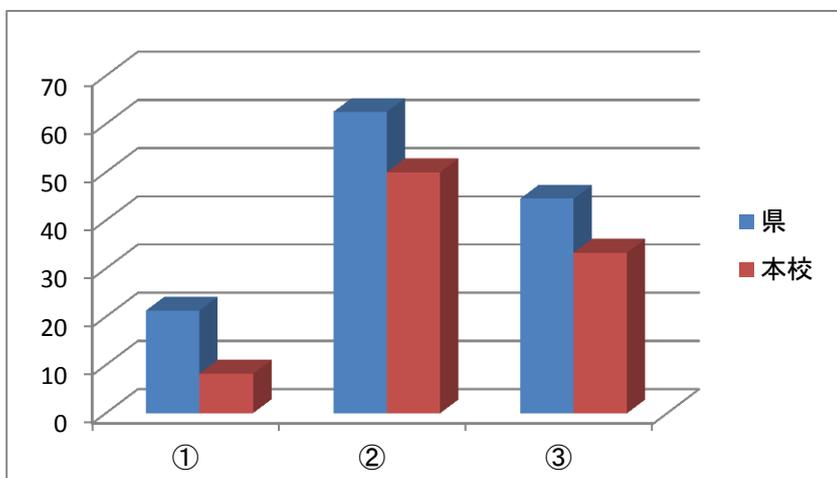


*** 分析と取り組み**

・学校生活も家庭生活も安定しており、自己肯定感が高く自信にも繋がっているため、ほとんどの項目で、県の数値を上回っているようだ。
 ・「QU」や毎月の「心のアンケート」、職員間の情報交換等で児童理解に努め、誰もが「安心」できる学校、学級作りに全職員で取り組んでいるため、友達関係が良くなってきていると思われる。(①③)
 ・規範意識が高く、与えられたことやしなければいけないこと等は頑張ることができる児童が多いといえる。(④)
 ・委員会活動や児童会活動などを通して、学校全体にこの意識を広めていきたい。

【数値が特に低かった項目】

①	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾・家庭教師の時間も含む。) *「2時間以上勉強している」と答えた児童の割合
②	学校の授業時間以外に、普段(月曜～金曜)、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾・家庭教師の時間も含む。) *「1時間以上勉強している」と答えた児童の割合
③	地域社会などで、ボランティア活動に参加したことがありますか。 *「参加したことがある」と答えた児童の割合



*** 分析と取り組み**

・平日30分以上は全員が勉強しているが、県に比べると長時間勉強している割合は少ない。ドリル的な学習課題だけでなく、自主学習の取り組みを紹介することで、勉強時間を確保できるよう家庭と連携したりするなど、能動的に学習に取り組む児童を増やしていく。(①②)
 ・委員会活動や学校行事等でボランティア活動を推進し奉仕活動に参加しやすい環境作りをしていきたい。(③)

全体の概要

全体としては、ほとんどの項目で県平均より上回っている。観点別に見ると、「知識・理解・技能」や「書く」においては、県正答率に対し、かなり上回っている。「話す・聞く」においては、県正答率と同じである。「読む」においては、県正答率に対し、やや下回っている。繰り返し練習するなど、学習したことを身につける事ができている児童は多いが、今まで学習したことを使い、新しいことを読み取る問題に対しては、苦手な傾向にあると考えられる。国語全体の到達分布は、「要努力」は少なく、「十分達成」している児童の正答率が県を大きく上回るという結果が出ている。平均より高い学力が身につけている児童が多いクラスだと考えられる。

- ・・・成果
- ・・・課題

分析結果・自校の課題		改善に向けた具体的取り組み	
話すこと・聞くこと	<p>○聞き手の反応を見ながら話す力や、相手や目的に応じて、理由を挙げながら筋道を立てて話すことは、身につけてきている。やまびこタイムやスピーチタイム、授業中の自分の発表する活動に取り組んでいる成果と考えられる。</p> <p>●書き言葉と話し言葉の区別、理由を述べる時の言い方など、相手意識をもった話し方を苦手としている児童がいる。</p>	<p>☆やまびこタイム(音読)やスピーチタイムに、引き続き継続して取り組んでいく。</p> <p>☆日頃のスピーチ、話し合い活動の場で、相手の意図をとらえながら聞くことに取り組ませる。</p> <p>☆大事なことをメモし、要約する問題に取り組む。</p> <p>★保護者の方に、引き続き毎日の音読を聞いていただくようお願いする。</p> <p>★書き言葉と話し言葉の区別、理由を述べる時の言い方など、相手意識をもった話し方を授業中の発表の時に確認させる必要がある。</p>	
書くこと	<p>○すべての問題で、県平均の正答率を上回っている。</p> <p>○間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすることはできている。</p> <p>○目的に応じて書く問題はできている。</p> <p>●県平均を上回っている問題でも、条件付きで説明する問題は、正答率が半分を下回っている。</p>	<p>☆常体や敬体の違いに意識させ、効果について考えさせたり、スキルを身につけさせたりする。</p> <p>☆自分の思いを表現するために、特徴のある言葉を使って考えさせるような問題に取り組ませる。</p> <p>★条件を与えた日記の宿題を出し、文章を書くことへの抵抗感をなくし、工夫して取り組ませる。</p>	
読むこと	<p>○段落相互の関係を読み取る問題は、県平均を上回っている。授業中に、段落ごとに何が書いているのかを確認して、まとめていることが成果につながっているといえる。</p> <p>●殆どの問題で、県平均を下回っている。特に、条件付きで理由を説明する問題は、正答率が低い。授業のまとめの時などに、キーワードを指定して書かせるなど、まずは条件付きで文章を書くことに慣れさせることが必要である。</p>	<p>☆内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりする活動を多く取り入れる。</p> <p>★「書くこと」と連動させ、重要な語や文を考えて選び出させたり、分かったことや考えたことを述べる活動に取り組ませたり、して読むことに取り組ませる。</p> <p>★自分の体験と結びつけて感想を持つような活動に取り組ませる。</p>	
言語事項	<p>○1問を除いて、他のすべての問題で県平均の正答率を上回っている。漢字の読み・書きは、毎日の宿題等で復習できている成果といえる。</p> <p>●県平均を超えているが、ローマ字の書きは正答率が半分である。ローマ字の読みに関して、促音の読みは高いが、拗音あまり高くない。</p>	<p>☆漢字は、よりたくさん問題に取り組み、いろいろな熟語を知り、応用力をつける。</p> <p>☆辞書を身近に置き、分からない言葉をすぐに調べることができるようにする。</p> <p>★ローマ字は、感興などで、目に触れる回数を増やしたり、身近な物をローマ字で書かせたり、して触れる機会を増やす。</p> <p>★国語タイムや宿題などで、言語に関する知識を増やしていく。</p>	



全体の概要

観点別に見ても内容・領域別に見ても、どの項目も平均より上回っている。また算数全体の到達度分布を見ると、二極化の傾向があると言える。クラス人数が20人と少ないことから、順位がやや固定する傾向があり、意欲を持たせる配慮が必要である。観点別では技能が、内容・領域別には数量関係が十分達成まで到達していることがわかる。また、無回答率も低く評価できる点である。

○・・・成果
●・・・課題

分析結果・自校の課題

数量や図形の知識・理解

○殆どの問題で、県平均の正答率を上回っている。これは、1時間1時間の授業を大切にし、問題解決学習型の授業を行ってきた成果といえる。また、学習のまとめやポイントの整理を繰り返してきたことも成果があった。
●正答率が県平均より一番低かったのは単位の異なる数字から教室の面積を答える問題だった。長さや面積の量感を正しく認識していないために、理解が十分でない。実際に計測できない長さ、面積、体積を感覚的に知るためにバーチャルで例示するなどの必要がある。
●同じく正答率が低かったのが、小数第2位までを比較し、4つの数を大きな数から並べていく問題であった。小数点をそろえることや10分の1の位や100分の1の位を再度確認しておく必要がある。



数量や図形についての技能

○殆どの問題で、県平均の正答率を上回っている。これは、家庭学習や、花丸タイムなどで計算技能のスキルアップを続けてきた成果と言える。
●平均以下だったのは、分度器の数字の読み方だった。0度を見つけること、0度からの数字を読むことができていない児童がいた。
●三角形を積み重ね、周りの長さを求める式を選ぶ問題では、提示されている表に数を入れていく作業を丁寧にやることで、立式できるが、そこまで至らない児童がいた。最後まで手順をやり通す力も必要である。



数学的な考え方

○殆どの問題で、県平均の正答率を上回っている。これは、交流活動を繰り返す中で自分の考えを持ち、それを他者に伝えることが定着してきた成果と言える。
●県平均は超えてはいるが、文章が多い問題になると、正答率が低い傾向にある。たくさんある情報の中から必要な情報だけを取り出し処理することができていない。



改善に向けた具体的取り組み

☆今後も交流活動を継続し、算数用語を使って発言するように指導していく。また、新しい用語は、掲示していつでも使えるようにする。

☆日常生活の様々な場面で、具体物を使った作業的・体験的活動を通して、目で確かめ、実際に計測することで確かな量を実感させる。また、確かな知識へつなぐためにワークや家庭学習などの繰り返し作業に取り組みさせる。

☆計算は繰り返すことで定着をはかることができるので、今後も家庭学習や、朝の時間を活用しながら、確かな力となるまで指導していく。



☆継続して、家庭学習や花丸タイムなどで、さらなるスキルアップを図っていく。「継続は力なり！！」

☆どんな問題にも対応できるように、花丸タイムや家庭学習の中で類似問題、応用問題に取り組める機会を多く持つ。



☆算数科だけでなく他教科でも、自力解決→交流活動→適応問題→ふりかえりの学習過程を積み重ねていくことで、内容の理解につなげていく。

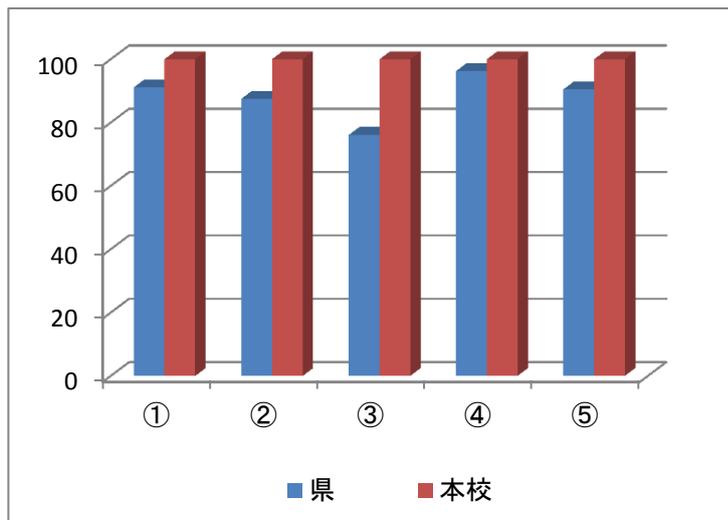
☆学習活動全般において、長文や情報過多の中から必要な部分を取り出すことなども含め、問題文をていねいに読み取ることを習慣化する。

☆今後、活用を意識した問題や発展的な問題を準備し、長文や情報過多の問題にも慣れさせる。

◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から《5年生》

【数値が特に高かった項目】

①	ノートに目標とまとめを書いている。	*「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の割合
②	授業で目標が示されている。	*「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の割合
③	授業の最後に振り返る活動を行っている	*「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の割合
④	宿題をしている。	*「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合
⑤	将来の夢や目標を持っている。	*「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合

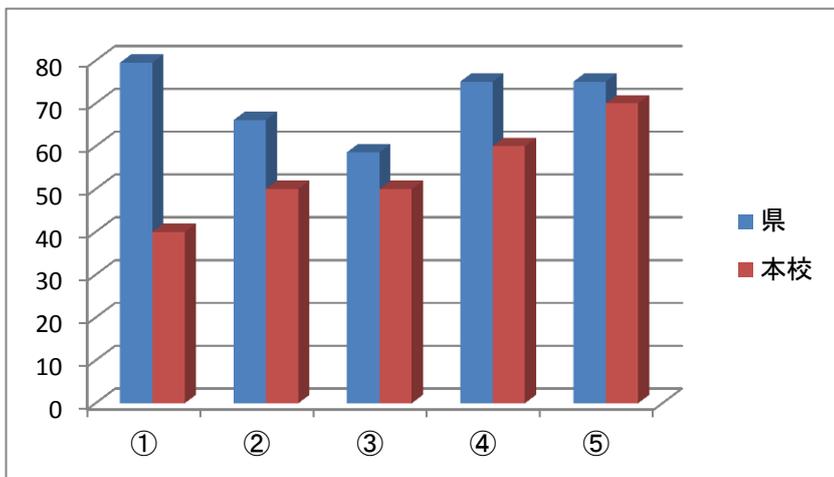


*** 分析と取り組み**

- ・学習の目標やまとめ、振り返りがよくできている。低学年の時から一貫した学習過程で指導が進められ成果が現れている(①②③)
- ・規範意識が高く、与えられたことやしなければいけないこと等は頑張ることができる児童が多いといえる。(④)
- ・誰もが「安心」できる学校、学級作りに全職員で取り組んでいるため、自己肯定感が高まってきていると思われる。(⑤)

【数値が特に低かった項目】

①	国語で文章を読むとき、段落やまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。	*「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合
②	国語で発表するとき、話の組み立てを工夫している。	*「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合
③	授業の復習をしている。	*「している」「どちらかというとしている」と答えた児童の割合
④	地域の行事に参加している。	*「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合
⑤	算数で学習したことを生活の中で活用できないか考える。	*「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合



*** 分析と取り組み**

- ・まとまりごとに読み取ったり、組み立てを意識して話したりすることが苦手と感じている児童が多い。(①②)
- ・日頃から読解力を高められるようなワークに取り組ませたり、読書活動を推進したりする。(①)
- ・文章構成を考えて話すことができるように、メモを活用したスピーチタイムを設定する。(②)
- ・ドリル的な学習課題だけでなく、自主学習で復習に取り組んでいる例を紹介することで、能動的に学習に取り組む児童を増やしていく。(③)
- ・単元の発展として、学習したことを日常に生かすことができるような活動を仕組む。(⑤)